

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、23～25℃台を示し、かなり低め～やや低めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――一月夜間とシケのため出漁日数が少なかった。西彼地区では、マアジなどが1日1統当たり0.4トンの水揚げで、前週の50%（前年を下回った）。五島奈留地区では、マアジなどが1日1統当たり0.4トンの水揚げで、前週の40%（前年を下回った）。北松南部地区では、マイワシが1日1統当たり2.4トンの水揚げで、前週の1.4倍（前年を上回った）。
- イカ釣――スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり50kgの水揚げで、前週を上回った（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり5トンの水揚げで、前週を上回った（前年を上回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり1.6kgの水揚げで、前週の17%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり1.79kgの水揚げで、前週の3%（前年を下回った）。五島奈留地区では、1日1統当たり9.8kgの水揚げで、前週の1.7倍（前年を上回った）。
- 定置網――五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり1.5トンの水揚げ。対馬西岸地区では、サワラなどが1日1統当たり3.7kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり700kgの水揚げ。
- トビウオ船曳――北松生月地区では、小トビ主体で1日1統当たり1.8トンの水揚げで、前週の2.8倍（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（9/24～9/29の6日間）沖合イカ釣り船（船凍船）は、大和堆付近で操業。赤イカは北太平洋に出漁。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、山口沖～山陰沖は時化のため出漁船はなく、能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。

鳥取県西部（沖合船）入港船なし。今期は時化の為、出漁船はなかった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第2-28号 長崎県周辺海域の海面水温（10月号）」を発売しました。

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>